

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会医療法人葦の会	代表者	仲宗根 哲也	法人・事業所の 特徴	同法人内に居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、訪問看護ステーション、ヘルパーステーション、通所介護（パワーリハビリ）グループホームがあり、常に利用者にとって必要なサービス、ケアを提供できる体制を準備しています。同法人の訪問診療所シャロンクリニックのDrとの連携も密になり、在宅での看取りも今まで以上に充実することができました。
事業所名	小規模多機能型居宅介護ノア	管理者	大田千登勢		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	1人	人	人	人	人	人	4人	人	5人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	目の離せない利用者も多く新規利用開始時に多くの時間を取って接することが難しい場合もあるが、午前午後のレク活動やトイレ誘導、入浴等、短い時間でも積極的に声掛けを行いフェイスシートには無い本人からの情報収集や情報の相違点を確認する。	新規利用者開始時には、利用者情報チェック表を貼りだして、気づいた点を記入していくように行った。関わりの中から、フェイスシートとの相違点、気づいた点を全体ミーティング（1か月経過）で話合うことができた。	取り組み結果が出来ている所と、出来ていない所があると思いますが、それに向けて職員間でよく話し合いが出来ていると感じた。	新規利用者の気づいた点を、新規利用者情報シートに記入するようにし、フェイスシートに記載されていない情報を記入する。その際、記入した職員の名前も表示。2週間経過ミーティング（終礼）を行い、月に1度の全体ミーティングでは、支援方法や内容の確認を行い、より良いケアに繋げていく。
B. 事業所のしつらえ・環境	菜園活動を一緒に行う予定でマッチングしていた地域の方から連絡があり、体調が良くなったとのことなので、再度調整して屋上菜園を再開できるように調整する。	土の入れ替えを行い、菜園再開を行う事が出来た。月に1,2度ではあるが、マッチングをしていた地域の方が利用されている。休憩スペースも設けており、利用者も菜園を見学しながら、おやつ時に憩いの場として活用している。	菜園活動の様子を見学させて頂きました。素晴らしいです。事業所内部・外部とも清潔であり、利用者さんにとっても良い環境であると感じます。WEB会議システム等を用いて確認させていただけると良いかと思えます。	屋上菜園を利用者の活動の場の一つにして、季節の花・野菜を植え、眺めて過ごしたり、収穫して楽しめるように取り組んでいく。環境の変化に伴い、WEB会議が行えるように環境整備を行う。
C. 事業所と地域のかかわり	公民館へパンフレットを置いたことで、ノアや地域交流室への問い合わせも増えている。現在新しいパンフレットを作成中で、今回、委員の意見から公民館以外の地域自治会集会所等、パンフレットを置かせてもらえるところを増やす。	今回は、近隣のお店（スーパー）の掲示板にチラシを貼ってもらいました。パンフレットを新規作成しました。同法人の居宅事務所には、配布して置いてもらいましたが、まだ公民館や地域の自治会事務所等には、配布が出来ていない。	コロナ禍で地域交流室が利用できなくなっているのは残念です。公民館やその他へパンフレット置くことで地域に知られていると感じます。まだまだと思いますが、以前より知名度は上がった。今回は、コロナの影響により行事やイベントへの参加が困難だった。	新規作成したパンフレットを、自治会事務所や公民館、または地域のお店に設置してもらい、事業所の紹介になるように、配布していく。



D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	オレンジカフェについてのアンケート結果の回答及び、カフェが利用者を限定せず、さまざまな方が気軽に集い、認知症の人や家族の悩みを共有し合いながら、専門職に相談もできる場所ということを再度ご家族へ周知しご家族の参加を促す。	コロナの影響があり、オレンジカフェへの参加は、ほぼありませんでした。開催もほぼ行われていない。	オレンジカフェ参加について、事業所の利用者さんにとって、良い取り組みだと思います。今回は、コロナの影響により改善対応が困難だったと思います。オレンジカフェで、ウクレレ演奏だけでも、WEBで見られても良いのではないかと？	感染状況を確認しながら、おやつの買い出しを利用者の方も一緒に行けるようにする。オレンジカフェへの参加を、感染対策を行いながら、参加が出来るように努める。ネット環境の整備に取り組む。
E. 運営推進会議を活かした取組み	民児協委員の方々に認知症についての研修会を行ったが、今回は民児協委員の方々の協力を得、委員の方々が地域でどのような活動を行っているのか職員に知ってもらう為、研修会を行う。	コロナ禍の中、研修会の中止が多く、開催することが出来なかった。	コロナの影響もあり、民生委員の活動も制限があった。新しい生活様式が提唱されていることから、参集型にこだわらず、WEB会議と参集型を併用する等、開催方法を検討してはどうか。	コロナ禍で生活様式への変化に伴い、WEB会議・研修も視野に入れ、ネット環境の整備を行う。
F. 事業所の防災・災害対策	地域で炊き出し訓練等、徐々に災害に向けての関心が高まっている。他事業所の参加もある為、地域で行われる防災訓練に積極的に関わり、地域での繋がりを作る。	コロナ禍での地域防災訓練は中止され、ミーティングの中で防災に関する映像を見ながら、事業所で消火器や避難場所の点検、確認を行った。	コロナ禍でも災害は起こる事から、地域をあげての取り組みが重要だと感じます。事業所での防災訓練等を録画して、運営委員の方に配信して事業所の情報を把握する手段にしてみてもどうか？	防災・災害への地域での訓練に積極的に参加する。災害等に必要な物品の確認を行い、備える。